

【題目】

FIM 細項目において回復期脳卒中片麻痺患者の歩行獲得に影響を及ぼす要因の検討

【目的】脳卒中片麻痺患者のリハビリテーションにおいて、歩行獲得の有無は在宅復帰の可否を大きく左右する因子である。その歩行獲得に及ぼす影響因子としては、従来より麻痺の程度が重要であるとされ、その評価法として、Brunnstrom-stage(以下 Brs)などが広く使用されてきた。しかし、麻痺が同程度であっても歩行能力改善には相違がみられる。そこで退院時 Brs 下肢 stageⅢの患者で歩行可能に至った要因を明確にしていくことで、治療方針の一助になると考え検討した。

【対象】2012年1月1日から2016年6月30日の間に当院回復期病棟を經由して退院に至った初発脳卒中片麻痺患者394名のうち、退院時 Brs 下肢 stageⅢの脳卒中片麻痺患者33名とした。

【方法】退院時歩行能力 FIM 細項目から移動項目で歩行 FIM5～7 点の介助なし群(10名)と FIM4 点以下の介助あり群(23名)に分類し、比較検討した。統計解析は介助なし群と介助あり群で個人因子、FIM 合計点・各項目点、高次脳機能、MMSE、リハビリに関わる因子などの各項目に対して単変量解析を行った。その中で有意差を認めた項目に対し、多変量解析を行った。有意水準は全て5%未満とした。

【結果】単変量解析の結果、入棟時・退院時 JCS、入棟時 FIM15 項目、退院時 FIM18 項目、退院時 MMSE で有意差を認めた。多変量解析を行った結果、退院時の更衣下衣動作($5.9 \pm 0.8/2.9 \pm 1.6$)が抽出された。

【考察】本研究の結果より、歩行獲得に対してさまざまな動作や認知項目、意識レベルに関係性が認められることが示された。その中でも退院時の更衣下衣動作との関係性が最も高いことが示唆された。歩行・更衣下衣動作の獲得には、体幹機能が大きく影響を及ぼしており、それに伴うバランス向上が歩行獲得に重要と考える。